

高等学校「現代文B」－安部公房『鞆』読解の試み

－高等学校「現代文B」高大連携授業の実践－

国語科 横井 健

次期学習指導要領において、汎用的なスキルの育成が重視され、国語はその基盤とされている。実社会・実生活に生きて働く国語の能力に重きが置かれているが、「文学」でしか育むことができない能力についても目を向ける必要がある。高大連携授業を通して、高校国語に於ける「文学」の可能性について考えたい。

<キーワード> 文学 現代文B 安部公房 高大連携

1 はじめに

現行学習指導要領の国語総合「読むこと」の指導事項には、「文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと」との記載があり、その上で「言語活動例」としてさまざまな文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること」と記されている。一方で、次期学習指導要領改訂に向けて「テキスト（情報）の理解」や「構成・表現形式を評価する力」の育成が求められている（註1）。「読み比べ」の視点が広げられ、構成・表現形式を評価する力が求められている。そこで、小説教材を構造的に理解することをきっかけに、批評文の製作のような言語活動や発展的学習へつなげたいと考えた。そのためには、まず小説を主体的に読むためのトレーニングが必要となる。今回の高大連携授業の必要がここに生まれた。

私はこれまで、評論文（論理的な文章）の理解・批評能力を育成し、テキスト形式の理解・読解と批評ができるようにさせる（参照「学習指導要領」「C 読むこと」「エ 表現の仕方を評価すること、書き手の意図をとらえることに関する指導事項」）ための学習シートの開発や、古文教材の読み方（表現の型・構成）や我が国の文化的意味を理解した上で、自分の考えや作品に対する批評の視点を持たせる（同「ウ 表現に即して読み味わうことに関する指導事項」）ための学習シートの開発等を愛知教育大学大学院教育実践研究科佐藤洋一教授とともに試み、随時その成果を発表してきた。研究発表（実践報告）の場において、生徒の思考過程や気づきの共有について課題が見えてきた。古文よりも形式が多岐にわたり、構造が複雑な小説教材に研究実践の幅を広げることで、生徒の言語能力の向上に資する教材開発につなげていくことを予定している。同時に、生徒の主体的な読解を認めながら、批評的な読みの指導・評価に一定の基準を提案したいと考えている。それゆえ、今回の試みは「文学国語」（仮称・註2）に向けて、小説教材を用いた授業の教育的意義と課題を明らかにするための試みでもある。

1 高大連携授業の概要

「現代文」の授業に対する関心高め読解力の向上を図るとともに、文学テキストの言説分析および

構造分析を通して論理的思考力を身に付けさせることを目標とし、3年生の理系クラス（2クラス76名）を対象に高大連携授業を行った（実際のところ、理系の進路において高等学校の「現代文」の学習内容を活用する大切さを確認させることも目標としている）。事前に、高等学校「現代文B」の授業で、記号論の基礎や安部公房の略歴を学び、「鞆」の主題について考察した上で愛知教育大学准教授奥田浩司先生にご協力頂き、文学研究の知見に基づいた主体的・批評的な読みにつなげるという試みである。

安部公房の「鞆」を教材とした実践については、「自分の考えを持つ」ことに主眼を置いた優れた先行事例がある。例えば、愛知県総合教育センター「研究紀要」106集所収、「自分の意見を分かりやすく話そう」では「鞆」を読解し作品の続きを創作させている。ただし、そもそも何故に読者が創作することが許されるのかという疑問には、管見のいたすところ答えていないようである。また、個々の読みを話し合う時間についても、指導を誤ると感想や印象を語り合うだけに終わってしまう危険もある。実際、『鞆』を扱った実践の中でせつかく協働学習の場を設けても「結論を求める同意形成型の交流になってしまった班があった」との反省がされている報告もある（富永鉄也・註3）。個々の読みを尊重しつつ、読みの根拠の妥当性を語り合えるような授業を作りたいと考えるに至った。高校の授業を通して学ぶ「鞆」の理解にとどまらず、研究者による客観的な読解の方法との比較を通して、高大連携ならではの深い学びにつなげる実践を報告する。

なお、ワークシートは、愛知教育大学教職大学院教授佐藤洋一先生・知立東高等学校野々山由佳先生の知見をもとに作成した（シート No.1・2。註4）。またシート No.5 は富永鉄也氏作成シート（註5）をベースにしている。

2 『鞆』を扱う理由について

石原千秋氏は安部公房の小説について次のように語っている。

安部公房の小説は論じにくい。それは安部公房の小説自体がすでに「論」になっていて、その枠組み通りに論じる以外に方法がないように思われるからである。その結果、研究者独自の枠組みから論じることができず、多くの読者がふつうに読むようにしか読めなくなってしまう。（傍点は原文。註6）

石原氏のいう「ふつう」とは「作者」には触れずに作品を読み解く「テキスト論」を前提とした「ふつう」である。テキスト論が読みの方法のすべてというわけではないが、「作者」や「作者の意図」を絶対化してしまえば、そもそも主体的な読みは生まれようがない。以前、太宰治『待つ』を扱った優れた研究授業を拝見したことがあるが、そこでも多くの資料（外部テキスト）を授業者が提示し、作品を相対化しておきながら、最後のまとめでは「作者・太宰がどんなふうに読んで欲しかったのか」という問いかけがなされ、国語教育の現場における「作者」の呪縛に驚かされた。「はじめに」でも触れたが、読者が作品を主体的に読み、作品の続きを創作したり、外部テキストと関連させて読みを深めたりすることは、作者を括弧で括っておかなければできない作業なのである。（そのため、奥田先生の講義の冒頭で「語り手」や「内的焦点化」など、文学研究の基本事項について、確認する時間を設けていただいた。）「作者」を捨象しても、小説の枠組みが安定している安部公房作品は、今回の試みに最適なものであった。

また、テキストに対して「ほどよい問いで満足していたのでは、一般の読者と同じレベルの読み込み

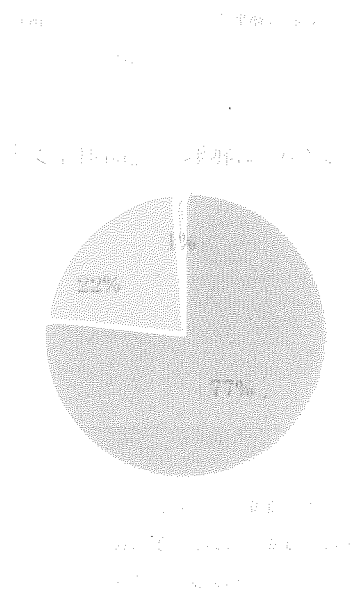
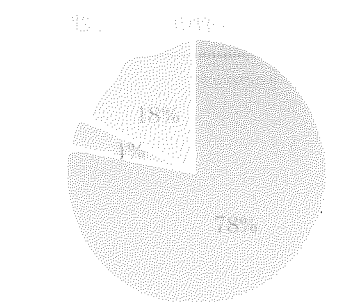
しかできない」（註7）と自負する石原氏のような研究者にとって、安部公房作品は「研究者独自」の読みが難しく、扱いにくいのかもしれないが、そもそも「ふつうに読む」ことを教室空間で共有しようという入門的な授業の教材として、安部公房作品は最適と考え、採用した。先行研究においてあまりに読みの幅が広い作品について読みの根拠を示しつつ検討していくことは授業時間内で消化することが困難だからである。

3 授業の実際

- 1 本文を音読し、小説「鞆」の内容を読み取る。語句の意味に注意し、指示語などを発問しながら、ワークシートに話の筋をまとめさせる。また、人物の設定やその効果について整理させる。(1.5時間)
- 2 ワークシートを使って「自由」について考えさせる。グループに分かれ、相互発表・相互評価の後、意見交換を行い、個々の考えを深めさせる。グループ学習の振り返りとともに、話し合いで解決しきれなかった疑問についてまとめさせる。(1.5時間)
- 3 生徒の疑問（生徒の疑問は主に、「自由」について、「鞆」の中身について、「私」の今後について、の3点に収斂した）を、テキスト論の知見のもとに解き明かす講義を行い、文学研究の一端に触れさせながら、生徒個々の読解との違い（読解の根拠の妥当性）を実感させ、今後の文学作品読解の参考にさせる。(1時間)

4 「理系の現代文」事後アンケートから

1	講義内容（難易度）について	人数	%
	1 難しい	26	35.6
	2 丁度良い	41	56.2
	3 易しい	6	8.2
2	「鞆」の理解について		
	1 理解が深まった	57	78.1
	2 理解は深まらなかった	3	4.1
	3 どちらともいえない	13	17.8
3	「鞆」でさらに学びたかったこと・知りたかったことについて		
	1 学ぶこと・知ることができた	63	86.3
	2 学ぶこと・知ることができなかった	10	13.7
	3 どちらともいえない		
4	「文学作品」の理解について		
	1 読み方が変わった・深まった	56	76.7
	2 読み方は変わらない・深まらない	16	21.9
	3 どちらともいえない	1	1.4



感想・疑問など自由記述（抜粋・下線は引用者）

- ・今回の講義で、小説を読むと言うことは思っていたよりも難しく、さまざまな読み方ができることも分かりました。
- ・今までは文章をなぞるだけだったが、講義で読み手の主体性が大切だと分かった。
- ・大学で学ぶことを織り交ぜながらの授業だったので新鮮でおもしろかった。

5 まとめ

小説の読解について、生徒同士の話し合いを通して、自分とは違った読みの可能性を意識できたこと、そこで解決できなかった疑問について、専門家を交えての学びの経験から、読みの根拠の妥当性について検討できたことはたいへん有意義であった。上記「3」では触れなかったが、例えば「赤ん坊の死体」という唐突な比喩のように、通常の授業では「物語の展開上特に重要な意味があるとはいえない」（安田正典 註8）とされ、素通りされてしまいそうな事柄についても、生徒の疑問から出発し、表現の意味について考えることができた。アンケートの記述の内容から、根拠を確認しながら作品を主体的に読解する方法を共有できたことがうかがえ、授業の目標はおおむね達成できたと思う。

一方で、「鞆」の理解が必ずしも「文学作品」全般への理解につながっておらず、読みが深まったと実感できていない生徒も見られる。これは、読みの根拠の妥当性を測る基準を授業者が明確に示すことができなかったことに原因の一つがあると考えられる。評価規準の明確化や『鞆』の学習にとどまらない汎用的なルーブリックの作成を次の目標とし、今後の課題とした。

註1 「教育課程部会言語能力の向上に関する特別チーム資料1」平成28年5月12日

註2 「教育課程部会国語WG資料3」平成28年5月31日

註3 群馬県教育センター「研究報告書」平成26年254集

註4 「愛知教育大学附属高等学校研究紀要」第34号 平成19年3月

註5 註3に同じ

註6 『教養として読む現代文』 朝日新聞出版 平成25年10月 p.144

註7 『大学受験のための小説講義』 ちくま新書 平成14年10月 p.177

註8 『精選現代文B 指導資料③』 三省堂 平成26年4月 p.114

ステップ1

小説（文学的な文章）の読み方について学びましょう

1. 音読しましょう。
2. 意味のままとまりごとに考えながら読む
3. 聞いている人がよく分かるように読む
4. 重要なことばや表現は、簡を取りゆつくり読む

2. 本文を2場面に分け、前半と後半の分かれ目を確認しましょう。

3. 小説（文学的な文章）を読むために大切なポイントは次の六つです。確認しましょう。

(1) 「状況設定」を確認する

- ① 時代背景はいつか？
- ② 場所・舞台はどこか？
- ③ 登場人物のリストアップ
ア 中心人物は誰か？
イ 対比されている人物は誰か？
ウ それ以外に登場する人物は？
エ 語り手は誰か？
- オ 中心人物と対比人物の関係は？

(2) 「場面構成」を確認する

- *エピソード・内容のまとまりごとの「場面」に分けて読む
- ① 状況設定（プロローグ）
 - ② 問題の発端
 - ③ 展開 エピソード
 - ④ 発展 話のクライマックス
 - ⑤ 結末（エピローグ）

(3) 「中心人物の変化」を確認する

- ① 中心人物のイメージの変化（見方や内面がどのように変化したか）
- ② 対比人物はどのような役割を持っているか

(4) 個性的な「描写」や優れた「表現」「イメージ・象徴性」を読み取る

- ① 空間性・立体性や時間感覚、視線など
- ② 特有の「イメージ」の効果や役割（例・色彩・動植物・宝石など）

(5) 作品のテーマ（主題）に対する解釈
テーマは何か？

(6) 作品に対して自分の「意見」「考え」を持つ

ステップ2

観点を意識して感想を持ちましょう

1. 『靴』を読んで、興味を持った場面、面白いと思った場面を選びましょう。

場面

理由

2. わからない・疑問を持った場面を選びましょう。

場面

理由

3. この小説を読むために、大切だと思う場面・表現を選びましょう。

場面

表現

理由

4. 優れていると思う「表現」や「イメージ」を抜き出し、その理由を書きましょう。

	理由
	理由
	理由
	理由
	理由
	理由

5. 私たちの周囲にあるもので、「青年」や「私」にとっての「靴」と同じような意味を持つものは何か、考えてみましょう。

ステップ5 「自由」について

- 1 「自由」とはそもそもどのような意味か、確認しましょう。
- ① 自分の思い通りに振る舞うことができる。また、その状態。例、もっと自由な時間が欲しい。
- ② 他からの強制・拘束・支配などを受けずに自己の権利を示すことができる。また、その状態。例、法的に自由の身となる。
- ③ 自己の主體的な考えのもとに行動を選択できる。また、その状態。例、自由に投票する。

(『ベネッセ表現読解国語辞典』)

・他からの制限や束縛を受けず、自分の意志・感情に従って行動する(できる)こと。
また、その様子。例、言論の自由が保障される。自由をはき違える。

(『新明解国語辞典』三省堂)

2 前者の「自由」とは

3 後者の「自由」とは

ステップ6 象徴的イメージと主題の構造を眺め取りましよう

1 次のもとは何を象徴していると考えられますか。

① 「靴」

② 急な坂・階段・石段

2 この作品の主題は何でしょう。

主題とは：作品によって伝えられる中心的なメッセージのことです。

大きく分けると、次の三つに考えられます。

- ① 作家の主題：他作品などでも多く見られる作家の意図した問題意識・メッセージ。
- ② 作品の主題：作品の構造・人物の変化に見られるメッセージ。
- ③ 読者の主題：読者が作品から自由に受け取るメッセージ。

① 作家の主題：他作品などでも多く見られる作家の意図した問題意識・メッセージ。

② 作品の主題：作品の構造・人物の変化に見られるメッセージ。

③ 読者の主題：読者が作品から自由に受け取るメッセージ。

ステップ7 わかりやすい発表をしましよう(グループ学習)

「靴」の主題について、分かりやすく具体的に語りましよう。
友達を発表を聞いて、自分の意見を持ちましよう。

1 友達の発表を聞きながら、◎・○・△をつけましよう。

聞き方				発表のまとめ方		
⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
気付いたことはメモをとりながら聞くことができた。	自分だったらどんな点を魅力に感じるだろうかと考えながら聞くことができた。	友達がどんな点を魅力に感じているかを考えながら聞くことができた。	発表をする友達の方を見ながら聞くことができた。	自分が作品から受け取ったもの、感じたことをはっきりさせることができた。	本文の内容に即して、相手を意識しながら、詳しく説明することができた。	関心を持った課題を選ぶことができた。
						メモ欄

2 関心を持った発表について、感想・意見を持ちましよう。

3 今日の学習を終えて「わかったこと」「考えたこと」等を書きましよう。

・身の回りの「靴」的なるものは何か？

4 さらに深く考えたいこと、知りたいことを記述して下さい。